アスリートのセカンドキャリア諸問題における
学生のキャリア意識調査

生涯スポーツゼミナール　1214169　村島　匠

１．研究動機・研究目的

2020 年、東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し，日本のスポーツに対する熱はますます盛り上がりを見せている。そのオリンピックをはじめとする世界の大舞台で活躍するトップアスリートは、日々パフォーマンスを向上させるための努力と研鑽を重ねていることだろう。そんな中、日本では、オリンピック等世界を舞台に活躍するようなトップアスリートにおいても、競技を続けられなった際に、就職先を含めたその後の生活問題、いわゆる「セカンドキャリア」が問題として注目されている。

本研究ではそういったアスリートのキャリアの現状を考察することを目的のひとつとする。本学は、全国から多くのトップアスリートが集まる日本トップレベルの健康総合スポーツ大学である。その本学において、入学後、専門種目に打ち込み、4 年間に渡る競技中心の生活を送っている学生も少なくない。しかしスポーツに生きるその学生たちが近い将来迎えるであろう引退についてどのような考えをもっているかについてはあまり把握できていないのが現状であると考えられる。このような問題意識に基づき、本研究では順天堂大学の学生を対象とする調査を行うことで、本学の学生アスリートの大学生活と競技生活について、そしてアスリートとしてのキャリアに関する意識の把握を目的とする。

２．研究方法

本研究における調査は以下の方法で実施した。

（１）調査方法…ＷＥＢアンケート調査
（２）調査対象…順天堂大学スポーツ健康科学部運動部所属学生 100 名
（３）実施期間 2017 年 11 月中旬
（４）アンケート項目
　１．諸属性について：所属学科、学年、性別、専門種目、競技レベル
　２．競技観について：3 項目、5 段階尺度
　３．本学のステータスについて：3 項目、5 段階尺度
　４．学業観について：3 項目、5 段階尺度
　５．競技引退後について：3 項目、5 段階尺度
　６．卒業後の進路について：3 項目、5 段階尺度
　７．大学生活および競技生活について：2 項目、5 段階尺度
　８．セカンドキャリアについて：4 項目、二者択一

３．主な結果と考察

（１）諸属性について

大半をスポーツ科学科が占め、マネジメント学科と健康学科については、それぞれほぼ同じ割合という結果になった。学年については全学年バランスよく分布していた。性別に

ついては大きな偏りもなく回答を得られた。競技レベルについては全体の半数を全国大会以上経験者であった。
（２）競技観について
　競技において、安定志向の学生が多い傾向にあった。人生において競技が占める割合が大きければ大きいほどに競技を通して感じる幸福は、そのまま人生における幸福につながる
（３）本学のステータスについて
　長い歴史のなかで先輩方が築いてきた順天堂大学のブランドを胸にアスリートとして戦えることを名誉に感じている学生が多い。
（４）学業観について
　学生トップアスリートであると同時に大学生としての本分である学業の必要性を理解し、学業に取り組んでいることいる
（５）競技引退後について
　多くの学生が競技引退後について考えていた。また、アスリートとして今現在の目の前のことにのみ集中して、後のことなど気にかけることなく、ベストを尽くすといった考えを持つ学生もいる。
（６）卒業後の進路について
　本学の学生は社会に出て働くことに確かな意義を見出しており、たとえ働かなくてもよい状況であっても、働かないという選択肢は選ばないという傾向にあることが分かった。
（７）大学生活および競技生活について
　本学において、高い競技レベルと両立して学業に励むことは簡単なことではない。そのような理想のキャンパスライフを送ることは必然的に充実した大学生活を送ることになることが分かった。
（８）セカンドキャリアについて
　本学は競技力がトップレベルの学生が集まっているため、競技に専念しすぎるあまり、引退後のキャリアプランニングまで考えがいたっていない。

４．結論

　競技引退後の先を見据えることの難しさが本学の学生アスリートにもあてはまっていた。セカンドキャリアに向けて適切なキャリアプランニングを経てスムーズなキャリアトランジションを果たすために、今一度、アスリートとしてセカンドキャリアと真剣に向き合う必要がある。また、アスリートたちが現役の時から引退後のことも含めて人生設計をすること、つまり、「競技者・アスリートとしての人生 」だけでなく、「人としての人生」も同時に積んで行くことが必要であるという「デュアルキャリア」という考え方も大切であることがわかった。

５．卒業論文の執筆を終えて

　卒業論文の執筆にあたり、ご多忙の中、熱心にご指導してくださった黒須先生をはじめ、調査に快くご協力してくださった学生の皆様、またその他にも多くの方々のご協力を賜りました。この場をお借りして心より深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。